

# 公益財団法人 国際労働財団(JILAF)

## 海外の「労働組合指導者の招へい事業」支援



### 活動概要

海外の労働組合指導者(リーダー)を招へいし、下記の活動等を行っています。

【労働講義】日本の労働運動や労働組合の組織構造、労働運動の現状や課題などについて、総合的に学びます。労使関係の講義では、我が国の建設的な労使関係を主題として「労使協議」や「生産性」、今日的課題である「ビジネスと人権・ディーセントワーク」について扱っています。

【労働関係組織への訪問】参加者は連合本部や厚生労働省、産業別労働組合などを訪問し、それぞれの組織が果たすべき役割や課題、直近の取組みなどについて講義を受けた後、相互の意見交換を通じて理解を深めていきます。

【労働事情を聴く会／国際シンポジウム】参加者から各国の労働事情について報告する機会を設定し、日本の労使の関係者に情報提供をしています。参加者は労使紛争の事例や労使紛争未然防止の取組みなど、労働事情全般について、質疑や意見交換を通して相互理解を促進しています。

【平和教育】戦争の惨禍や平和の価値について理解を深めるプログラムを自主事業として行っています。

### 補助金の使い道

平和教育・通訳費(平和教育(広島・長崎)のうち、通訳に要した金額)

### 社会貢献について

●JILAFの招へい活動には、日本の「労働に関する知識や考え方」を世界中の働く人々と共有するという社会貢献性があります。

●特に、途上国からの労働組合リーダーを招へいすることで、彼らが日本の労働環境や政策を学び、地元を持ち帰り活用する機会が増え、その結果、持続可能な社会や経済の発展に寄与します。

●これらの活動は、国際的な労働ネットワークを広げ、より良い国際社会を築き、「持続的な発展」を達成するための支援となります。

### 寄付者の方へメッセージ

JILAFの招へい活動は、世界各国の労働組合リーダーを日本に招き、労使関係や労働法について学んでいただいています。このうち日本国政府の支援範囲に入っていないために、当財団が自主事業として実施している「平和教育(戦争の惨禍や平和の価値について理解を深めるプログラム)」に関して、皆さまのご支援をいただければ幸いです。

皆さまの温かなご支援が、持続可能な社会の実現に向けた大きな力となります。どうぞご協力をお願いします。

# 認定特定非営利活動法人 ファミリーハウス

## 難病の子どもとその家族のためのハウス(滞在施設)運営プロジェクト



### 活動概要

認定特定非営利活動法人ファミリーハウス(事務局所在地:千代田区)は、小児がんを始めとする難病の治療のために高度先進医療を必要とする子どもとその家族に対し、1泊 1,000円で安心・安全に宿泊できるハウス(滞在施設)を運営しています。現在東京都内で8施設16部屋を運営し、ホスピタリティを重視し、施設を利用される方の「精神的、身体的、経済的負担」を軽減するとともに闘病生活を支援しています。

補助金は、滞在施設の衛生環境向上を図るため専門業者によるハウスクリーニング費用として使わせて頂きました。

### 補助金の使い道

専門業者による滞在施設「ちいさいおうち」の専門業者によるハウスクリーニング費

### 社会貢献について

病気の子どもの家族が1泊 1000円(患児、未就学の兄弟一名は無料)で宿泊できるハウス(滞在施設)を運営することで、年間延べ5,800人以上(2024年実績)の子どもと家族が安心して治療に専念できる環境を維持します。

### 寄付者の方へメッセージ

1991年創立以来、ハウスを利用された家族数は延べ2万を超えました。「あたたかみのあるハウスづくり」「免疫力の下がった患児も安心して泊まれる、清潔な環境づくり」など、ハウスを支える日頃の活動は、活動拠点である千代田区に在住・勤務の方を含む多くのボランティアに支えられています。又、賃料や、免疫力の低下した子どもを感染症から守るための専門業者によるハウスクリーニング費用、寝具リネンリース料など、ハウスの運営費は皆さまからの寄付で成り立っています。

今回のご寄付も病気の子どもの家族の、病気の時だからこそ大切にしたい「ふつうの生活」を支えるため、大切に使わせて頂きました。ご支援ありがとうございました。

# 公益社団法人 日本リウマチ友の会

## リウマチに関わる啓発活動



### 活動概要

機関誌『流』の発行、「リウマチ白書」(5年に一度)の発行、公開講演会、ホームページの運用、リウマチ患者が必要とする自助具を紹介する「生活便利帳」の発行など

### 補助金の使い道

通信費(「生活便利帳」作成に関わる連絡通信費)

### 社会貢献について

リウマチに関する啓発・リウマチ対策の確立と推進に関する事業を行い、リウマチ性疾患を有する者の福祉の向上に寄与することを目的として活動を続けている。

### 寄付者の方へメッセージ

リウマチは今、「寛解」を目指せる時代となってきました。リウマチ患者は全国に70~80万人とされています。

全国どこに住んでいても同じ治療が受けられるよう、全国各地において正しい情報の発信・相談などの啓発活動を続けており、これからも続けて参ります。

# 公益財団法人 交通遺児育英会

## 交通遺児への奨学金支給補助



### 活動概要

自動車やバイクの交通事故が原因で保護者が死亡あるいは重度障がいを持った子女等のうち、経済的な理由で修学が困難な方に学費を貸与(一部給付)して、教育の機会均等を図り、社会に有用な人材を育成することを行っています。また奨学金以外に修学支援金として家賃補助、進学受験費用補助、資格試験費用補助などを給付しています。高校奨学生を対象に夏休みの3週間に30名程度を米国に派遣する海外語学研修を実施しています。

その他、東京、関西へ上京した奨学生に対して学生寮「心塾」を運営しています。

### 補助金の使い道

検定・資格試験費用補助(TOEIC Listening&ReadingとTOEFL iBTの一人分の受験費用補助)

### 社会貢献について

昭和44年の設立以来、56年間の間に約58,000人に累計584億円を貸与(一部給付)してきました。かたや交通事故の減少を目指すことで、一人でも交通遺児をつくらない活動から、企業・団体に対して交通事故被害者の声を届ける「無料出張講演」を実施しています。

### 寄付者の方へメッセージ

あしながおじさん、進学したよ。出会えてよかった交通遺児育英会。

# 公益財団法人 経団連国際教育交流財団

I. 日本人大学院生奨学事業

II. 経団連グローバル人材育成スカラーシップ事業



## 活動概要

### I. 日本人大学院生奨学事業

学業、人物ともに優秀であって、広く社会に貢献する意志を持ち、将来、アカデミアの世界で研究者として活躍することが期待される日本人大学院生を対象に、奨学生を募集・選考を実施した。2025年4月に対象25大学に対して募集を開始し、5大学から計13名の応募があった。学識経験者から成る選考委員による書類選考および面接選考を経て、最終的に2名を2026年度派遣奨学生として選考した。また、2024年度生および2025年度生の計3名に対し、奨学金の支給を行った。(支給期間は1年又は2年、年間奨学金支給額は1人500万円)。

### II. 経団連グローバル人材育成スカラーシップ事業

将来、グローバルなビジネス領域での活躍を目指すとともに日本の経済社会の発展にも貢献する意志もしくはビジョンを有する50大学より348名の応募があり、書類選考と面接選考を経て20名を選抜した。

また、2025年度生に対し、奨学金の支給を行った。(支給期間1年、奨学生1人あたり200万円を支給)

## 補助金の使い道

奨学金等

# 公益財団法人 経団連国際教育交流財団

I. 日本人大学院生奨学事業 II. 経団連グローバル人材育成スカラーシップ事業

## 社会貢献について

### I. 日本人大学院生奨学事業

将来、アカデミアの世界で研究者として活躍することを目指す学生たちの留学機会を金銭面でサポートすることで、金銭的制約による留学機会の喪失を防ぎ、国際的な研究経験の獲得を可能とした。これにより、日本の将来の学術分野への貢献につなげた。

### II. 経団連グローバル人材育成スカラーシップ事業

グローバルなビジネス領域での活躍を目指すとともに日本の経済社会の発展にも貢献する意志もしくはビジョンを有する有望な学生が海外留学できるように、金銭面のサポートすることで、金銭的制約による留学機会の喪失を防ぎ、国際的な経験の獲得を可能とした。

## 寄付者の方へメッセージ

このたびは、ご支援を賜り心より御礼申し上げます。皆様の温かいご支援は、未来ある学生たちの挑戦を力強く後押しし、大きな励みとなっております。

本奨学金を通じて育まれた人材が、将来、広く社会に貢献し、日本の経済社会の発展に寄与することを期待しております。今後とも変わらぬお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 公益財団法人 東京コミュニティー財団

## 学生チャレンジ奨学金



### 活動概要

寄附者から寄附金を受けて奨学金基金を設立し、基金の趣旨に副う活動を目指す上で奨学金を必要とする学生を公募しました。その結果、17名の学生から応募があり、書類及びZoomによるプレゼンテーションにより審査を行い、9名へ合計180万円の奨学金を給付しました。

### 補助金の使い道

支払助成金(9名の学生に対し総額180万円の奨学金を給付したうちの一部に充当)

### 社会貢献について

経済状況や家庭環境など様々な理由で進学や留学などの夢を諦めざるを得ない若者を奨学金で支援し、次世代の人材育成と豊かな社会の実現に貢献してまいります。

### 寄付者の方へメッセージ

基金の趣旨にご賛同いただき貴重なご寄附を誠にありがとうございます。  
後日、奨学金給付を受けた学生からの報告書をお送りいたします。  
引き続き当財団の活動にご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

# 公益社団法人 ユナイテッド・ワールド・カレッジ日本協会

## 高校生の留学支援



### 活動概要

UWC各校に派遣する日本の高等学校等に在籍する生徒の選考と奨学生に対する奨学金の支給を行った。

ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)は、教育をとおして平和と持続可能な未来のために人々、国家、文化を結びつけることを目的とした民間教育機関で世界各国から派遣された生徒を世界18の国・地域にあるUWC校(高校)で2年間受け入れている。生徒は、国際バカロレアの主にディプロマ課程のカリキュラムに沿った教育を受け、学業に加え、国際理解を深める機会や各種ボランティアを経験した。

### 補助金の使い道

UWC日本協会奨学金給付、選考に関わる費用等

### 社会貢献について

教育を通じて国際感覚豊かな人材を育成することを目的に活用しているユナイテッド・ワールド・カレッジの事業に協力し、わが国の高等学校等の生徒を世界各国のユナイテッド・ワールド・カレッジに派遣するために必要な援助を行うことを通じて国際感覚豊かな人材の養成に寄与し、もって日本と諸外国との相互理解の増進に資すると考えます。

### 寄付者の方へメッセージ

日本の高校生が真の国際感覚を身に着ける機会を持ち、未来のチェンジメーカーとなれるよう、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

# 公益財団法人 母子衛生研究会

## インターネットを通じた妊娠～子育て期の悩み相談事業



### 活動概要

妊娠～子育て期の親や養育者等の悩みに寄り添い、子育てを支援する活動として、子育て家庭の多忙化や核家族化などにより身近で相談できる時間・場所がないというニーズに応える活動を行いました。

#### ①【個別・直接のアプローチ】オンライン母子保健相談室

ビデオ通話アプリを使用し、有資格者(保健師または助産師)が1対1で、妊娠～子育て期の方の相談に応えます。近くに相談場所がない方、外出が難しい方等、多くの方から『オンライン母子保健相談室』があってよかった』と、喜びの声をいただきました。

毎月1回の定期開催 延べ50組の子育て世帯とのオンライン相談を実施

#### ②【広く一般に公開】インターネット相談室

当会に寄せられる妊娠～子育て期の悩みを、広く一般の方の参考になるよう編集し、医師等の各専門家に回答を執筆いただいて毎月HPで公開しています。「インターネット上で多くの情報が氾濫している中、専門家の回答は確かな情報源として参考になる」と、多くの方にお読みいただきました。

該当コンテンツのページ表示回数:約50万回以上/月

### 補助金の使い道

オンライン母子保健相談室の助産師相談費用等

### 社会貢献について

妊娠～子育て期の親等の不安や悩みを解消し、安心して子育てできる生活につながりました。親の悩みに寄り添い、支援することは、子どもたちのすこやかな成長を支えることそのものだと確認できました。

### 寄付者の方へメッセージ

子どものすこやかな誕生と成長は、すべての親の願いです。子どもの笑顔と幸せを思うとき、親はときに不安や悩みを抱えることもあります。そうした不安や悩みに寄り添う取り組みに、皆さまからのご寄附を活用させていただきました。あたたかいご支援、誠にありがとうございました。

# 特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム

千代田から届ける緊急支援 ―被災者の命を守る緊急災害支援プロジェクト



## 活動概要

本事業は、国内外で自然災害や紛争が発生した際に、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(以下「JPF」)が加盟NGOを通じて被災地へ迅速に緊急支援を届けることができるよう、災害発生直後の初動対応に必要な資金を確保するために実施しました。

本事業により確保した災害対応資金(以下「緊急災害支援基金」)は、事業期間中に発生した国内外の災害への初動支援に活用され、当該期間に実施した複数の緊急支援事業のうち4件において同基金を充当しました。

本事業により集まった寄付金のうち、補助金交付額として申請した17,000円については、2025年10月から実施している「フィリピン・セブ島沖地震・台風被災者支援2025」に係る初動支援費用の一部として、同基金からの拠出額の一部に充当しました。

当該支援では、総額約1,200万円の支援活動を実施し、のべ6,934世帯を対象に以下の支援を行いました。

- ・浄水器の設置による安全な水の確保:計5,785世帯
- ・被災者の生活に必要な日用品・衛生用品等の配布:計1,149世帯

## 補助金の使い道

事業費(災害発生時の初動対応に備えて設置した「緊急災害支援基金」への充当)

# 特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム

## 千代田から届ける緊急支援 ―被災者の命を守る緊急災害支援プロジェクト

### 社会貢献について

本事業は、災害発生直後の初動支援を可能とする体制を維持することにより、被災者の生命の保護および生活の早期安定に寄与しました。

フィリピン・セブ島での災害においては、緊急災害支援基金からの資金拠出により、被災者に対する生活支援等の初動対応を実施し、安全な生活環境の確保や被災者の不安の軽減につながりました。特に、支援対象となったメデリンは、被害規模に比して支援が十分に行き届いていなかった地域であり、本支援は支援不足の補完という点でも意義を有するものとなりました。

12月末までに予定していた支援事業を完了し、事業地における家屋修繕キットの使用状況の把握を行った結果、住民が配布された修繕キットを活用して一部損壊家屋の修繕を開始していることを確認しました。各世帯の経済状況により修繕開始時期には差が見られるものの、地震およびその後の荒天により悪化していた生活環境の改善が進んでいることが確認されました。

なお、本事業により確保された緊急災害支援基金は、特定の災害への支援に限らず、2025年度中に国内外で発生した複数の災害に対し、JPFが迅速に初動対応を実施するための基盤として活用されました。これにより、被災地の状況に応じた迅速な支援活動の実施が可能となり、本事業はJPFが行う国内外の緊急支援活動全体を支える取組みとして、千代田区から被災地への支援の一端を担うものとなっています。

### 寄付者の方へメッセージ

本事業にご寄付をお寄せいただいた皆さまに、心より御礼申し上げます。いただいたご寄付は、災害発生直後の被災者支援に必要な初動対応のために活用させていただきました。

今後も災害に備える資金の確保と迅速な支援体制の維持に努め、被災者の生命と生活を支える支援活動に取り組んでまいります。

# 学校法人 共立女子学園

共立女子大学・共立女子短期大学 国際交流・留学支援寄付事業



## 活動概要

共立女子学園は、建学の精神「女性の自立と自活」および校訓「誠実、勤勉、友愛」に基づき、他者と協働しながら自分らしいリーダーシップを発揮し、社会の様々な分野で活躍できる自立した人材の育成を目指しています。設置校である共立女子大学・共立女子短期大学(以下、本学)では、【誰もが“Major in Anything. Minor in Leadership.®”を実感できる大学・短期大学】というビジョンを掲げ、「国際化」の推進を重点項目としています。これにより、学生および教職員が国際交流を通じて多様性を理解し、尊重し合いながら「共立リーダーシップ®」を発揮できるような環境づくりを目指しています。

このビジョンの達成に向けた評価指標は以下の通りです。

- ・国際交流方針に基づいた、組織的な支援体制・制度の構築
  - ・本学への留学生数の増加
  - ・本学からの留学者数の増加

これらの取り組みを通じて、本学は教育機関としての社会的責任を果たすとともに、教育・行動指針として掲げる「リーダーシップの共立®」の実現を目指しています。また、千代田区と連携し、地域に根差した高等教育機関として、教育・文化的貢献をさらに推進してまいります。本事業への参加を通じて、地域社会と協働する教育の質向上と国際人材の育成を一層強化していきたいと考えております。

## 補助金の使い道

- ① 学生への国際交流基金支援
- ② 国際交流にかかる学生の活動支援

# 学校法人 共立女子学園

## 共立女子大学・共立女子短期大学 国際交流・留学支援寄付事業

### 社会貢献について

本奨学金は、経済的な事情により留学等が困難な学生や外国人留学生に対し、国際的な学びの機会を提供することを目的としています。異文化に触れる体験を通じて学生の視野が広がり、多様性を尊重する姿勢を育むとともに、将来的にはグローバル社会に貢献できる人材の育成が期待されます。

また、得られた知見や経験は学内外で共有され、地域社会における国際理解の促進および多文化共生の推進にも寄与します。

### 寄付者の方へメッセージ

皆様のご支援により、学生が世界へ挑戦する機会を得られます。国際経験は学びを深め、地域と社会に還元されます。未来を担う人材育成に、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 学校法人 上智学院

## 「叡智が世界をつなぐ奨学基金」への積み立て事業



### 活動概要

本学は「他者のために、他者とともに」の教育精神のもと、多文化共生と持続可能な未来に資する教育・研究を推進しています。本学では、研究者養成や留学生支援など、多様な学生の学びをサポートするための奨学金制度を設けています。当該奨学金の原資として「叡智が世界をつなぐ奨学基金」を設立しており、頂戴したご寄附は本基金への積み立てに利用いたします。

### 補助金の使い道

「叡智が世界をつなぐ奨学基金」への積み立て事業

### 社会貢献について

本学は多様性あふれるキャンパスで「他者を理解する創造力」や「持続可能な社会の実現に向けた行動力」を身につけ、未来を創るリーダーとして本学で得た学びを社会に還元できる学生の育成に取り組んでいます。「叡智が世界をつなぐ奨学基金」により、若手研究者や海外からの留学生など、多様な学生の学びを支え、社会に貢献できる学生を国内のみならず世界へ向け輩出しています。

### 寄付者の方へメッセージ

本学は世界に貢献する人材を育てる「叡智の学府」を目指し、「他者のために、他者とともに」の教育精神のもと、日本そして世界が直面している様々な課題解決を目指すべく力を尽くしています。今回頂戴した貴重なご寄附は当該基金に積み立て、キリスト教ヒューマニズムの精神に基づき将来国際社会に寄与しうる学生に対し、その運用果実を奨学金として給付いたします。

# 公益財団法人 伏見記念財団

## I. 奨学金事業 II. 優秀論文の表彰事業



### 活動概要

#### I. 奨学金事業

本財団は、日本の歴史又は文化に関する研究に取り組む大学院生を支援し、我が国の歴史・文化研究の振興及び次世代研究者の育成に寄与することを目的として奨学金給付事業を実施しました。

本年度は、公募により奨学生を募集し、選考委員会による審査を経て修士・博士前期課程15名、博士後期課程5名を採択しました。奨学生には、修士・博士前期課程に月額3万円、博士後期課程に月額5万円の奨学金を給付し、大学院における研究活動の支援を行いました。

#### II. 優秀論文の表彰事業

本財団は、日本の歴史又は文化に関する研究の振興を目的として、優れた博士論文を顕彰する表彰事業を実施しました。本年度は第1回目で、大学院生及び若手研究者による博士論文を対象に募集を行い、専門分野の有識者による審査を経て、顕彰にふさわしいと認められた1名を受賞者として選考しました。

なお、2月には表彰式及び祝賀会を開催し、受賞者の功績を顕彰するとともに、研究成果の紹介を行いました。

### 補助金の使い道

奨学金、報奨金等

# 公益財団法人 伏見記念財団

## I. 奨学金事業 II. 優秀論文の表彰事業

### 社会貢献について

#### I. 奨学金事業

本財団は、日本の歴史又は文化に関する研究に大学院において取り組む学生に対し奨学金を給付し、研究活動を支援しております。これにより、学生が経済的負担を軽減し研究に専念できる環境を整えるとともに、日本の歴史や文化の継承及び発展を担う次世代の研究者の育成に寄与しております。

#### II. 優秀論文の表彰事業

本事業は、日本の歴史又は文化に関する研究に取り組む大学院生や若手研究者を対象に優れた研究成果を顕彰するものであり、研究活動への意欲を高めるとともに、研究成果の社会的評価の機会を提供するものであります。今回は事業を始め1回目ですが、これにより、日本の歴史・文化に関する研究活動の奨励と研究水準の向上とともに、その研究を担う次世代の研究者の育成に寄与してまいります。

### 寄付者の方へメッセージ

#### I. 奨学金事業

皆様からお寄せいただいたご厚志は、日本の歴史及び文化の研究に取り組む学生への奨学金給付や、日本文化の保全・継承に資する活動への助成などに活かされております。

日本の歴史や文化を次世代へと伝えていくことは、社会全体にとって大切な使命であると考えておりますので、今後とも当財団の活動にご理解を賜り、未永くお見守りいただければ幸いに存じます。

#### II. 優秀論文の表彰事業

皆様からのご支援は、日本の歴史及び文化の研究を志す学生や研究者の育成、また優れた研究成果を顕彰する事業などに活かされております。

日本の歴史と文化は、長い年月をかけて受け継がれてきたかけがえのない財産であり、これを次代へと伝えていくことは私たちの大切な使命です。

今後とも当財団の活動にご理解を賜り、未永くお見守りいただければ幸いに存じます。

# 学校法人 城西大学

## JIU×ちよだ防災備蓄等強化事業



### 活動概要

#### 1 趣旨

千代田区の防災計画における備蓄食料は、帰宅困難者対策条例に基づき、事業所には3日分の飲料水・食料の備蓄が義務付けられている。これに基づき大学は下記の要領で保存食を備蓄する。

##### (1) 帰宅困難者人員等

###### ア 教職員:

法人13名 (計13名)

JIU 教員41名 職員37名(業務委託含8名む)その他10名 (計88名)

JU 職員 6名 教員13名 (計19名)

合計120名(保存食3日分)1080食

###### イ 学生:

2187名 (在学人員JIU1760名、JU327名、院生100名)

受講学生数約65% 1430名(保存食 2日分)8580食

ウ 平河町2丁目町内:1016名(保存食 2日分)4,200食

##### (2) 食料備蓄:2~3日分 計14,000食(13,860食)

#### 2 食料の配布

配布場所は3号棟1Fエントランスを基本とするが場合によっては教室毎に配布する。

#### 3 避難場所として使用する教室

### 補助金の使い道

消耗品費支出(JIU×ちよだ防災備蓄等強化事業内の備蓄保存食糧の購入)

### 社会貢献について

大学が持つ人的・物的資源を活用し、学生・教職員に加え、地域社会全体の防災力向上を図る取り組みである。備蓄品の整備を通じて、地域との信頼関係を深め、平時からの連携体制を築くことで、災害発生時の迅速な対応と被害軽減につなげる効果が見込まれる。

### 寄付者の方へメッセージ

皆さまからのご寄附は、学生・教職員をはじめ、地域の皆さまの安全を守る備えとなります。大学が地域とともに歩む防災の役割を果たすため、大切に活用させていただきます。

# 公益財団法人 東京経済研究センター(略称:TCER)

## TCER経済セミナー



### 活動概要

タイムリーなテーマ設定で、そのテーマを専門とする一流の経済学研究者を招いて経済セミナーを開催、ネット上で一般公開します。(ZOOM使用。参加費無料)内容は研究者3名による講演・パネルディスカッション・質疑応答等で、年2回開催です。司会は本財団から担当者が務めます。セミナーの概要は後日、日本評論社「経済セミナー」誌上に掲載されます。

【セミナー開催】2025年7月25日(金)19時~21時

【テーマ】「改めて、自由な国際貿易と投資の意義を考える」

【パネリスト】遠藤正寛(慶應義塾大学商学部教授)、木村福成(慶應義塾大学名誉教授・シニア教授/日本貿易振興機構アジア経済研究所所長)、古沢泰治(東京大学大学院経済学研究科教授)

【司会】植田健一(東京大学金融教育研究センター長、東京大学大学院経済学研究科教授、公益財団法人東京経済研究センター代表理事)

【セミナー概要の雑誌掲載】日本評論社「経済セミナー」2025年12月-2026年1月号(2025年11月発売)

### 補助金の使い道

給料手当、会議費、賃借料

### 社会貢献について

TCER経済セミナーでは以下の2つを主な目的としています。

- ・経済学研究者の専門知識を一般の方々へ還元し、経済と経済学に興味を持つ方を増やすこと。
- ・研究者ではない方々との質疑応答を通じて、研究者が気づきを得ること。

経済・経済学に興味を持っている方であれば、どなたでも無料で参加できます。(スマホまたはPCは必要)

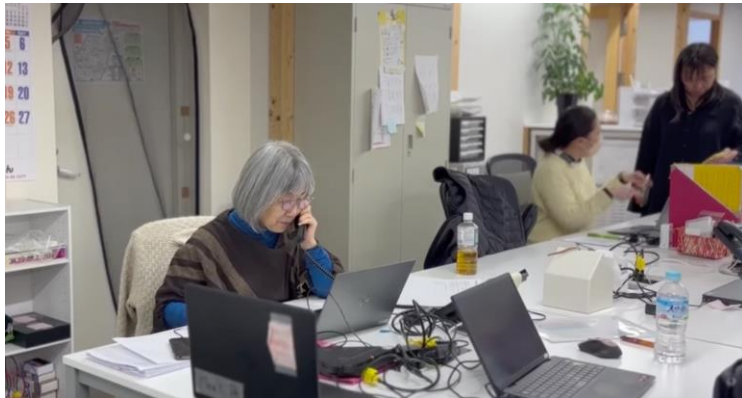
セミナーを通じて日本の経済学のすそ野を広げて、経済学と経済の発展につなげることを目指しています。

### 寄付者の方へメッセージ

日本経済の持続的な発展を目指して、日本と世界が直面する様々な問題に関して、経済学を応用した調査研究を推進・助成している法人です。このセミナーで一般の皆様に向けて、ホットなトピックを取り上げ、日本のトップクラスの経済学者が、議論します。ぜひセミナーに参加し、最先端の経済学に触れつつ、ご一緒に考えましょう。皆様のサポートをお願いいたします。

# 認定NPO法人 難民支援協会

## 日本に逃れた難民への支援活動



### 活動概要

日本に逃れた難民の多くは、なかなか難民として認定されず、生活に関するセーフティネットも脆弱な中、困窮した状況に置かれています。

当事業はそのような難民に対し、難民認定手続きの支援や生活支援、定住支援を行いました。支援においてはまず相談に来られる方の置かれた状況や難民となった背景を伺う必要がありますが、日本語や英語、フランス語を話される方ばかりではないため、通訳者が必要になることが多くあります。また、難民認定手続きの支援において難民となった状況を証明する資料の翻訳なども実施しています。

生活支援においては、相談対応、食料の提供、医療機関の紹介、一時の宿泊先の提供などを実施しました。また定住に向けた支援として、就労のための職業紹介や訓練、地域での生活に関する難民や自治体など地域の関係者からの相談対応などを行っています。これらの活動は当会の事務所で行われることが多いですが、一部事務所外(例:医療機関への同行)でも行っています。

### 補助金の使い道

謝金(通訳費用)、旅費交通費

### 社会貢献について

当事業により日本に逃れた難民が難民として適切に認定され、困窮を脱して生活できるようになることは、当事者の人権を保護すること、及び当事者を含めた日本に暮らす人々が尊重され、安心して暮らせるようにつながります。また、広く人権が守られる社会の実現にもつながります。

### 寄付者の方へメッセージ

世界各国で発生している紛争や人権侵害から逃れた人々が、日本にも逃れてきています。しかしその多くは、なかなか難民として認定されず、困難な状況に置かれています。皆さまからのご寄付により、このような難民への支援を継続することができ、安心して暮らせる状況に少しでも近づけることができます。

ぜひ今後とも、ご支援、ご関心の程お願いいたします。

# 公益財団法人 国際開発救援財団

## 千代田発、元気な農村プロジェクト in カンボジア



### 活動概要

カンボジアのコンポンチュナン州の中でも特に貧困率が高いコンポンレーン郡では、雨季は川の増水により農地や家屋の大半が水没する地区もあり、主要な収入源である農耕もままなりません。十分な生計手段がなく困窮した生活から抜け出すことが難しいことに加え、乳幼児の栄養不良も深刻です。

この状況に対し当財団は本補助金を活用して、日本企業との協働による、日本の食文化を活かした地場産業の開発に取り組みました。現地の川魚や野菜を原材料とした、カンボジア産「ふりかけ」のレシピ開発を進め、3種類のオリジナリティ溢れるレシピを完成させました。カルシウムが豊富に含まれているこのふりかけを、乳幼児や大人の栄養改善に役立てようと地元で普及活動を進めたところ、ふりかけを取り入れる家庭や学校が出てきました。同時に、地元の人たちがふりかけを生産・販売することで家計の手助けとなるよう、新たな副収入源の創出となることも目指しています。パッケージ開発や販促パンフレットの製作を行い（※）、地元のみならず首都でも商品紹介を本格化させました。とりわけ2025年11月には、多くの人々で賑わう首都のイオン・モールで開催されたジャパン・フェアに出展して、3日間で2,000人超のお客様にふりかけを試食していただくことができました。様々な企業、学校、個人から注文やコラボレーションの提案を受け、日本発の新たな食文化の定着へと一つひとつステップを進めています。

※本補助金は、これらの製作・販促費用に充てさせていただきました。

### 補助金の使い道

地場産業開発費(レシピ開発、生産者育成、販路開拓)

### 社会貢献について

近年、急速に発展を進めるカンボジアの中でも、農村部において発展から取り残され、極めて厳しい生活環境にいる人々が、地元の資源や日本の知見を活かして、自分たちの力で自立に向けて力強く歩み出しています

### 寄付者の方へメッセージ

日本のふりかけをヒントに、日本の商社&NGO&地元の住民が、力をあわせて「カンボジア産ふりかけ」を開発しました！日本人の知恵と食文化が、カンボジアの自然素材と結びつき、子どもや大人の栄養改善と、地元住民の収入向上を支えています。ご協力くださった皆様に感謝を申し上げます。私たちの愛情がこめられたふりかけの大躍進を、ぜひ応援してください！

# 特定非営利活動法人 フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

## ラオスにおける小児医療支援



### 活動概要

ラオ・フレンズ小児病院は設立10周年の大きな節目を迎えました。これまでのべ30万人以上の子ども達に無料で質の高い医療を提供し、ラオスの北部地域にとって欠かせない医療機関へと成長することができました。2025年は麻疹の大流行があり、長期間にわたって対応に追われる日々が続きました。1,200件以上の症例と4人の死亡が報告されるなど大きな試練にも直面しましたが、スタッフの献身により危機は収束に向かっています。

新たな取り組みとしては、国際ボランティアの支援を受けながら専門診療(小児整形外科・眼科手術)を開始。耳鼻咽喉科分野でも専門チームとの連携を開始しました。

医療人材育成にも継続して取り組み、「すべての患者を自分の子どものように治療する」という理念のもと、病院運営の現地化に向け、着実に歩みを進めています。

### 補助金の使い道

治療用品(シリンジ 20ml x 769 本 購入)

### 社会貢献について

乳幼児死亡率が依然として高いラオスでは、適切な医療を受けられずに亡くなる子どもが少なくありません。皆さまからのご支援により、当団体がラオスに設立したラオ・フレンズ病院で治療を受けられる子どもたちが着実に増え、救える命が確かに守られています。

また、ラオ・フレンズ小児病院は教育病院としての役割も担い、現地の人材育成を通じて、ラオス全体の小児医療レベルの向上にも大きく貢献しています。

### 寄付者の方へメッセージ

このたびは、ラオスの子どもたちのためにあたたかいご寄付をお寄せいただき、誠にありがとうございます。皆さまのお力添えにより、治療を必要とする子どもたちに医療を届けることができ、尊い命が守られました。

# 公益社団法人 日本山岳会

## 初級者向け登山講習会



### 活動概要

読図講習や気象講習などのテーマ毎にそれぞれ机上と実技の講習会をおこなう。毎月1テーマ、年間22回実施。

机上の場合は講師1名、実技の場合は2名～7名が講師およびサブ講師として講習にあたった。

机上講習は原則として日本山岳会本部会議室(千代田区)でおこない、実技はテーマに相応しい山岳でおこなった。

### 補助金の使い道

印刷費(受講生のテキストの印刷費)

### 社会貢献について

当会の「安全登山の啓発事業」のひとつ。山岳遭難事故の減少をめざした啓発活動で、ネット情報に偏った登山者が増加し、山岳事故が増えているため、講習会をおこなった。

### 寄付者の方へメッセージ

当会は講師もスタッフもすべて無償で、教材費、交通費、宿泊費などすべて手弁当である。持続するために講師に交通費を支給したいと考えている。